



心理士さんに質問！

Q1：見知らぬ人や場所、初めてのことをとても嫌がります。  
そういう時は、どうしたらよいでしょうか。

A：無理に慣れさせるという発想ではなく、「どうして嫌なのか（理由）」から対応を考えてみましょう



#### 考えられる理由

**不安感**  
これから何が起こるか、分からぬ

**混乱（パニック）**  
自分が思っていた（予想した）ことと違う

**拒否**  
自分のしたいことが別にある

**苦手な感覚刺激**  
うるさすぎる・明るすぎる等がある

**身体の不調**  
眠たい・空腹・暑い等がある

#### 理由に沿った対応方法の例

##### ①事前の予告

誰に会うのか、どこに行くのか、何をするのかを前もって伝えておく。伝え方は、「言葉」だけでなく「見てわかるもの（イラスト・写真・動画等）と一緒にの方がわかりやすい。



残り時間の見えるアプリやタイマーなどを利用する

##### ②子どものペースを大切にする

じっと動かない態度は、見ることで周りの情報をを集めている可能性が高いので、十分に見る時間を与えてあげる。どうしても動かない時は、「今日は帰って、また次来ようか」と次につなげるほうがうまくいく場合もある。

##### 思いを聞く・いつできるか伝える

「AかB」等、二択のほうが答えやすい子どももいる。したいことがいつできるか等は、「言葉」+「カレンダー」と一緒に示したり、「〇回、寝たら…」と一緒に数えたり、子どもの分かりやすい方法で伝えることが大切。



##### ①過ごしやすい環境を選ぶ

人が少ない時間帯に出かける、イヤーマフ（消音のための耳当て）を使用する等、苦手な刺激を避けたり、減らしたりする。

ガヤガヤ、  
イラ  
ア



##### ②体調の管理に気をつける

1日のスケジュールを詰め込み過ぎず、余裕を持たせる（普段、昼寝をしているなら、短くてもその時間を取る、食事の時間は大きく変えない等）。

発達支援課発行の『のびのび通信』も6年目を迎きました。この通信が、子どもの育ちを応援する情報として参考になったり、「発達支援」を知るきっかけとなったりするようにと思っています。今回は、「人見知り・場見知り」「新しいことが苦手」「1番にこだわる」など、相談のなかでよく出る質問を取り上げました。ここで紹介する方法が、そうした時期を笑顔で乗り越えていけるようなヒントになればと思います。しかし、なかなか対応方法が見つからない…という場合には、身近な支援者（通われている園や子育て支援センター、保健センター）や、おおむね4歳以上の子どもさんは発達支援課に相談いただくことができます。

甲賀市発達支援課 R7.5（季刊発行）

Q2：失敗をとても嫌がったり、1番にこだわったりします。  
これって性格なのでしょうか？

A：性格という見方ではなく、1番じゃないこと、失敗することが「どうして嫌なのか（理由）」から考えてみましょう。

#### 考えられる理由

##### 不安感

失敗した後、どうしたらいいのか分からぬ

##### 混乱（パニック）

自分が思っていたこと（1番になる）と違う

#### 理由に沿った対応方法の例

##### ①選択肢をいくつか用意しておく

A（1番）ができるといいけれど、BやCの場合もある…と複数のパターンを用意し、Aができなかつた後にする行動をあらかじめ決めておく。A以外の行動を取れた場合には、すぐにほめてあげる。



##### ②嫌な気持ちを受け止める

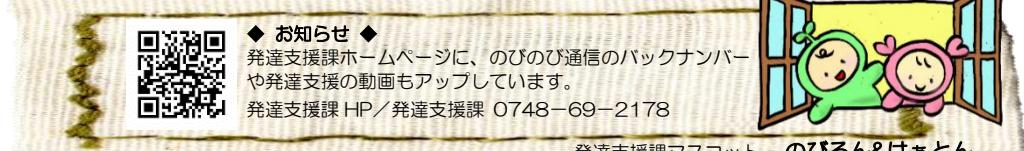
子どもが嫌がらなければ、スキンシップ等をとりながら、気持ちを受け止める。大切なことは、嫌な気持ちになっても、時間がたてば気持ちちは落ち着くものだということを子どもが経験すること。

#### 発達の特徴：イマジネーション（想像する力）の弱さ

- \* 生まれつきの「脳のタイプの違い」は、誰にでもあると言われています（右利き、左利きもその一つです）。
- \* その違いが、生活するうえで問題になるとき、「どうしてできないんだろう」と、子どもの性格や親の育て方に理由を求めるのではなく、「発達の特徴」として捉え、対応方法を見つけたほうが、うまくいくことがあります。



「発達の特徴」の1つに「イマジネーション（想像する力）の弱さ」があります。実は、決まっていないことを楽しめるのは、想像する力があるからです（柔軟性ともいわれます）。この力が弱いと、「いつもと同じ」にこだわり、子どもに合わせることに周りの大人は時に負担感を抱いたり、仕方なく合わせているうちに子どもの要求がエスカレートしていったりすることもあります。



発達支援課マスコット のびるん&はあとん